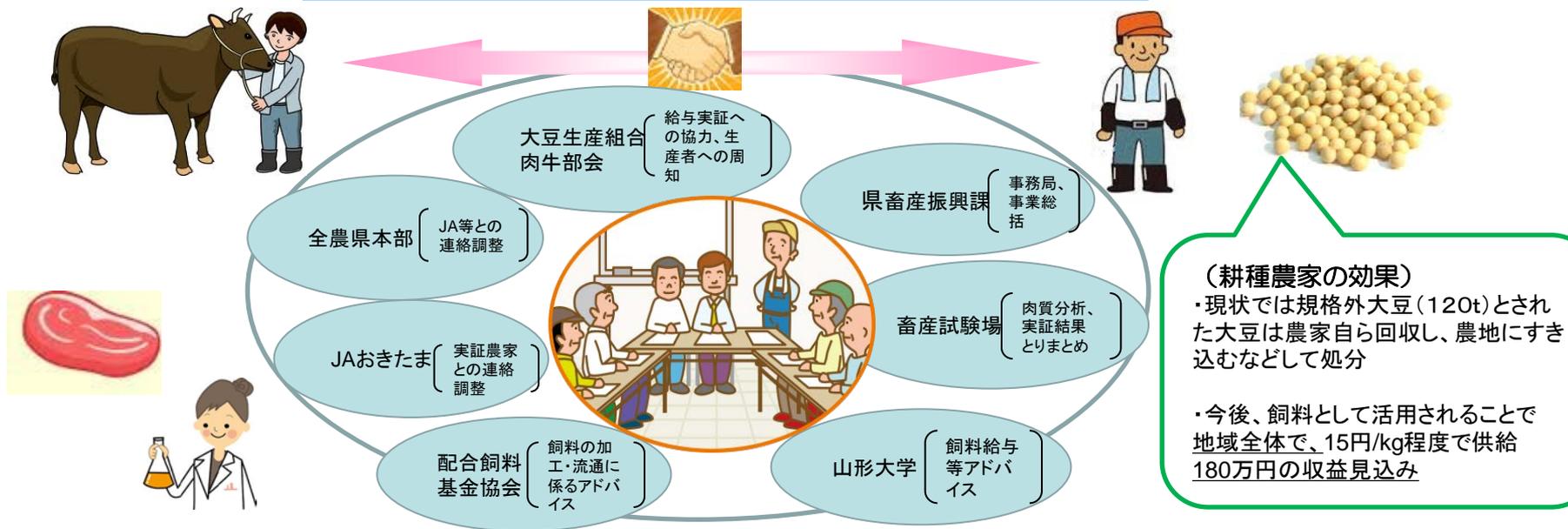


耕種農家も取り込んだ畜産クラスター事例① 山形県

山形県規格外大豆畜産活用協議会

規格外大豆を飼料として給与することで、肉質や脂質の良い牛肉ブランドを確立し、普及することにより付加価値向上とコスト低減を実現

規格外大豆を活用した肥育牛への給与実証



（実証内容）

○肥育牛に加熱・発酵処理した規格外大豆をモデル的に給与し、肉質・脂肪等を分析・調査し、生産性・コスト低減効果を実証

この結果を踏まえ、県内の肥育農家に規格外大豆の飼料利用を普及

（肥育農家の効果）

①付加価値の向上：

肉質や脂質の良い牛肉ブランドとして付加価値を高めて販売

②飼料価格の低減：

未利用資源の活用による飼料費のコスト低減

地域全体で、83 百万円の収益増

【地域の収益性向上】

○規格外大豆飼料給与1300頭 × (販売価格上昇5.2万円/頭 + 飼料費低減1.1万円/頭) = 8,190万円

○耕種農家の収益180万円

川上（生産者）から川下（小売業者）まで参加した畜産クラスター事例② 香川県

讃岐牛・オリーブ牛振興会

オリーブ飼料を給与したオリーブ牛の付加価値向上と販路拡大による収益力向上の実現

○讃岐牛・オリーブ牛振興会

- ・指定生産者(78戸)：繁殖・肥育地域内一貫生産
- ・JA香川県、県肉連：運営用務
- ・県畜産協会、県畜産課：企画・立案
- ・指定販売店(105店)
- ・指定料理店(60店)



供給

連携

【飼料製造業者・耕種農家】

○オリーブ飼料製造業者

- ・(株)東洋オリーブ
- ・(株)アグリオリーブ小豆島
- ・法美匠
- ・新規オリーブ飼料製造業者

○オリーブ
農園
小豆島内
香川県内

【獣医師・普及員・関係団体】

【効果】

【実証内容】

○牛肉の食味アンケート調査、肉質分析による美味しさ指標づくり、取組の広報等を実証

この結果を踏まえ、オリーブ飼料(オリーブ搾油後の果実を乾燥)を給与したオリーブ牛の品質向上と優良繁殖雌牛導入等により生産拡大

【生産量の増大】

オリーブ牛認証頭数、1,450頭→2,400頭

【高付加価値化】

オリーブ認証牛として、付加価値を高めた販売

【販路拡大】

広報宣伝の強化

地域全体で、71百万円の収益増

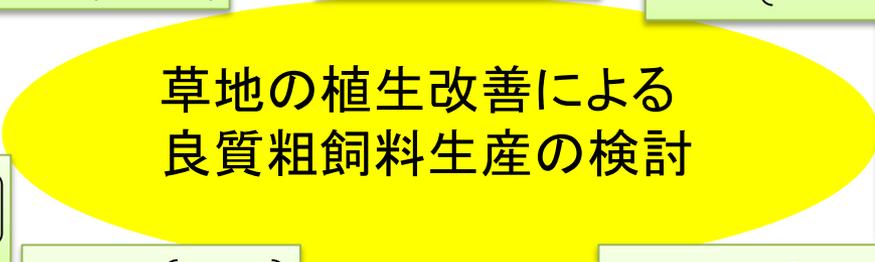
【地域の収益性向上】

認証牛950頭(生産増)×7.5万円/頭
=71百万円

地域の様々な関係者が連携、結集した畜産クラスター事例③ 北海道

天塩町営農対策協議会

地域に適した草地の植生改善手法を普及拡大させ、良質自給飼料の生産性向上による酪農・畜産経営の収益力向上を実現



農業試験場 (実証調査への協力)

酪農家 (実証ほ場設置協力)

JA (資材調達、啓発、営農支援)

天塩町 (全体総括)

乳検組合 (乳量、乳質の検証)



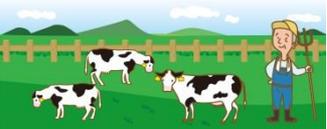
留萌振興局 (関係機関、団体との連絡調整)

機械メーカー (機械提供、技術的アドバイス)

普及センター (普及推進)

NOSAI (飼養管理に関する技術的アドバイス)

飼料・肥料等資材メーカー (技術的アドバイス)



効果

実証内容

○地域に適した植生改善手法(草地更新工法、イネ科強害雑草防除体系、品種の選定等)を農家など関係者の目に見える形で実証・確立
この結果を踏まえ、地域に適した草地の植生改善手法を普及拡大

①経産牛1頭あたりの収益増
良質粗飼料給与による乳量向上

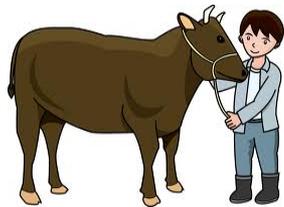
②地域全体での収益増
 $7,907 \text{ 頭} \times 1 \text{ 頭あたり収益増 } 73,396 \text{ 円} = 580,342 \text{ 千円収益増}$

* 1頭当たり乳代約7万円収益性増加
地域全体では、乳代で580百万円の収益増見込み。

地域の肉用牛関係者が連携した畜産クラスター事例④ 福島県

JA東西しらかわ和牛繁殖振興協議会

発情発見装置の活用による生産性の向上とモデル的大型農場の設置による地域の和牛繁殖生産基盤の維持・拡大



和牛繁殖農家
(実証参加・取り
まとめ)

後継者グループ
(実証参加・取り
まとめ)

・発情発見装置を利用した1年1産を目指した飼養管理技術の実証

コントラクター組織
(実証支援)

埴町
(参加者連絡調整)

福島県
県南農林事務所
(助言・指導)

○JA東西しらかわ
(事務局・総括・実証取りまとめ)

・100頭規模のモデル的大型農場の設置に向けた検討

飼料製造業者
(助言・指導)

JA全農福島
(助言・指導)



【実証内容】

- 発情発見装置による農家の作業負担軽減と分娩間隔短縮に関する取組を実証
- 100頭規模の大型農場の設置に向けた指標づくり及び検討

【効果】

【分娩間隔の短縮による子牛生産の増加】
繁殖雌牛頭数 1,500頭
分娩間隔 13.2ヶ月 → 12.5ヶ月
子牛生産 1,365頭 → 1,440頭 75頭増

【100頭規模農場の設置による子牛生産の増加】
子牛生産 100頭 × 12/12.5 = 96頭増
地区全体で171頭の増加

地域全体で、84百万円の生産拡大

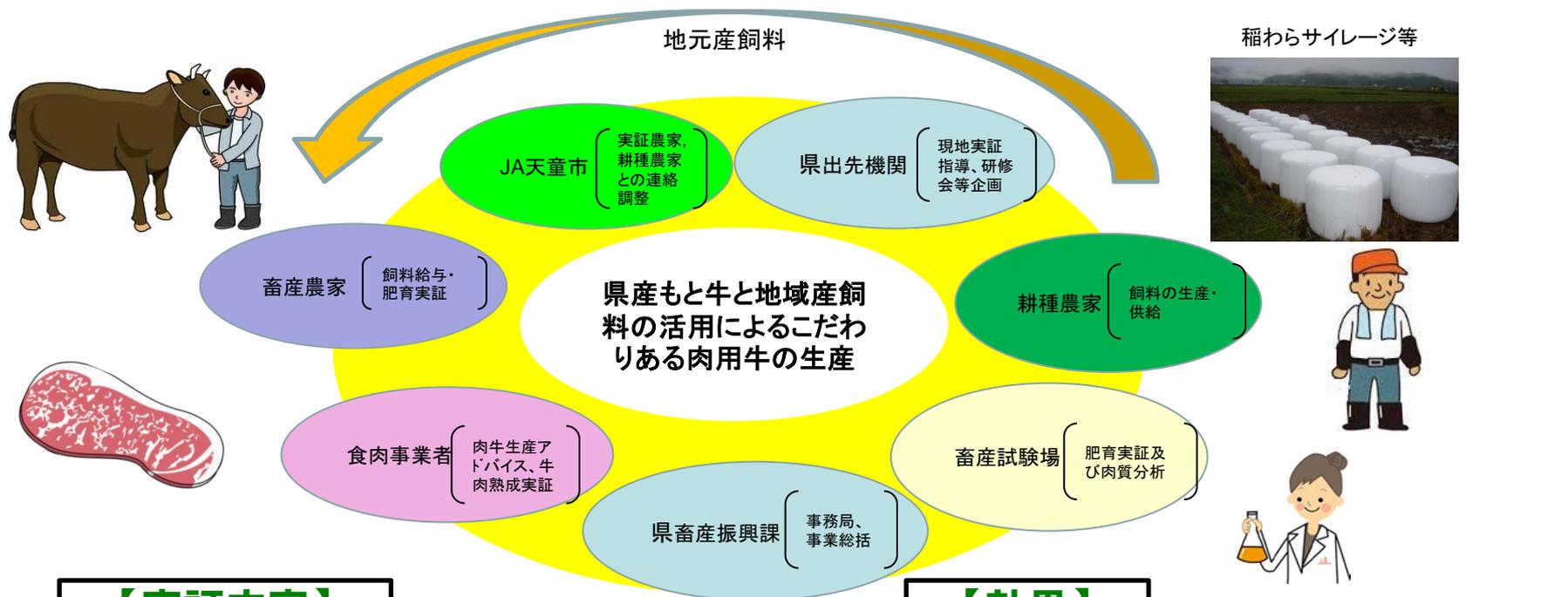
【地域の子牛生産増加額】
子牛171頭(生産増) × 49万円/頭
= 84百万円

※49万円/頭はH25年の福島県平均子牛価格

地域の耕畜関係者が連携した畜産クラスター事例⑤ 山形県

未来ある肉用牛生産協議会

肥育仕上げ期の給与飼料を県産を中心とした100%国産飼料とする特徴ある飼養管理と牛肉の熟成技術を組み合わせ、牛肉の差別化と飼料コストの低減を実現



【実証内容】

○県産もと牛の肥育仕上げ期に、県産を中心に100%国産飼料を給与し、発育や肉質、食味等への影響を調査・分析、また生産された牛肉の熟成技術を実証その結果を踏まえ、他産地との差別化を推進

【効果】

- (肥育農家の効果)
- ①飼料価格の低減：
肥育仕上げ期の飼料をすべて国産にすることによる飼料費の低減
 - ②飼料自給率の向上：
肥育仕上げ期に100%国産飼料を給与することによる飼料自給率の向上 15% → 25%

地域全体で、5百万円の収益増
【地域の収益性向上】

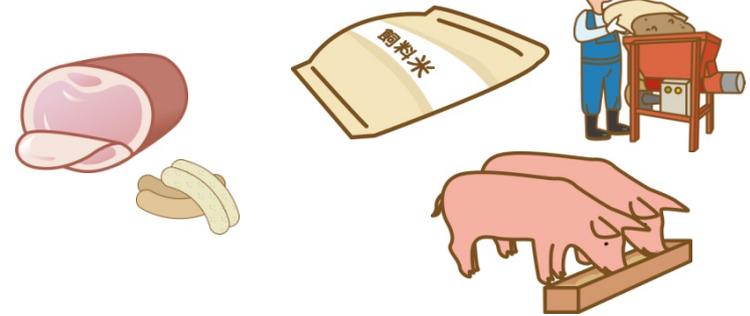
○肥育仕上げ期100%国産飼料給与
200頭 × (飼料費低減2.6万円/頭)
= 520万円

かながわ銘柄豚肉推進協議会

飼料用米利用による豚肉の品質向上と地産地消による消費拡大の取組による収益力向上を実現

畜産クラスター

- ・銘柄豚肉出荷養豚農家(生産者調整等)
- ・全農神奈川県本部畜産部(技術指導等)
- ・神奈川県環境農政局農政部畜産課(技術支援等)
- ・神奈川県畜産技術センター(技術支援・普及指導)
- ・神奈川県畜産会(技術支援・経営支援)
- ・神奈川県畜産振興会(技術支援)
- ・(株)横浜ミート(技術支援・消費拡大等支援)
- ・神奈川県養豚協会(事務局)



実証内容

○銘柄豚肉の有利販売を促進するため、銘柄豚肉指定飼料の一部を飼料用米に置き換え、品質向上生産実証試験を流通業者や消費者等のアンケートによる品質の評価を得ながら実施。

実証試験結果や消費拡大イベントの開催により、県下銘柄豚肉の販売促進を図り、生産者の収益力を向上

効果

【販売頭数の増加】

銘柄豚肉生産グループにおける銘柄豚肉としての出荷頭数
43,800頭 → 50,000頭 14%増

【高付加価値化】

飼料用米利用による付加価値の向上
イベント開催による認知度の向上による販売店の増加

地域全体で12.9百万円の収益増

【地域の収益性向上】

6,200頭数 × 77kg × 27円※
=12.9百万円

※H25の銘柄豚と非銘柄豚の枝肉価格の差額

地域の畜産関係者や飼料メーカーが連携する畜産クラスター事例⑦ 長野県

なんしん しりょうようまい りょうふきゅう きょうぎかい
南信飼料用米利用普及協議会

飼料用米、リンゴジュース粕等を利用した高付加価値で且つ安価な飼料を製造し、乳牛へ給与することにより、飼料コストの低減を図り収益力向上を実現する

畜産クラスター

生産者集団等

- ・伊那酪農業協同組合（生産者等調整、技術指導等）
- ・上伊那農業協同組合（飼料用米供給等）
- ・城田牧場（飼料用米給餌・実証）

行政関連、事業進行

- ・（一社）長野県農協地域開発機構（事務局）
- ・長野県（実証指導・助言等）

飼養管理技術支援

- ・（株）イトウ精麦（飼料用米加工・TMR調製実証）
- ・中央オリオン販売（株）（採食量データ等の収集・技術支援）



実証内容

○飼料用米の発芽、圧ペン加工、ペレット化による高付加価値飼料の製造及び地域の飼料用米とリンゴジュース粕等の地域資源を利用した嗜好性が高く、長期保存可能な発酵TMRの製造、給与実証を行い、調製技術の開発等を実証
この結果を踏まえ、南信地域の飼料コストの低減を図る

効果

【飼料コストの低減】

配合飼料価格58円/kg → 52円/kg
TMR飼料価格41円/kg → 36円/kg

【飼料自給率の向上】

穀類の自給率 0% → 20%
粗飼料自給率 80% → 80%

地域全体で20.1百万円(62.1百万円)の収益増

【地域の収益性向上】

1頭当たり 配合飼料 2,800kg/年
TMR飼料 10,360kg/年
1頭あたりコスト低減額 16,800円/年(配合)
[51,800円/年(TMR)]
1,200頭* × 16,800円 = 約20.1百万円(配合)
[1,200頭* × 51,800円 = 約62.1万円(TMR)]

※伊那酪農業協同組合の搾乳牛飼育頭数

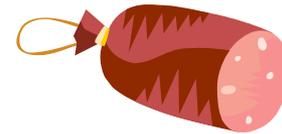
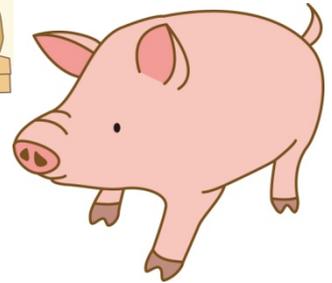
県内の畜産関係者が連携する畜産クラスター事例⑧ 長野県

信州おいしい豚肉生産協議会

オレイン酸に着目した県独自のおいしい豚肉基準を策定し、県産豚肉のブランドの確立を図り収益力向上を実現

畜産クラスター

- ・全農長野県本部(サンプル提供等)
- ・長野県養豚協会(サンプル提供等)
- ・長野県農協直販(株)(サンプル採材、成分測定等)
- ・(株)マルイチ産商(サンプル採材、成分測定等)
- ・(一社)長野県畜産会(事務局)
- ・長野県畜産試験場(食味試験、事例検討等)
- ・長野県園芸畜産課(事務局)



実証内容

○県産豚肉のオレイン酸含有量等の現状を把握するとともに、食味との関連を調査、実証し、「おいしい基準」の策定会議を実施し、基準を満たす豚肉生産技術の検討、認定制度の研究を実施
この結果を踏まえ、県産豚肉のブランドの確立を図る

効果

【県豚肉生産額の向上】

生産額49億円 → 50億円

〔 県域全体で1億円の収益増
長野県食と農業農村振興計画から 〕

地域の畜産関係者や試験研究機関が連携する畜産クラスター事例 ⑨ 長野県

やつがたけ なんろくほうぼく きょうぎかい
八ヶ岳南麓放牧協議会

放牧酪農への転換により、生産コストの低減を図るとともに、酪農産物の差別化・ブランド化を図り収益力向上を実現

畜産クラスター

生産者集団

- ・JA信州諏訪(生産者等調整、技術指導等)
- ・長坂放牧研究会(技術支援)



行政関連、事業進行

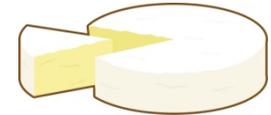
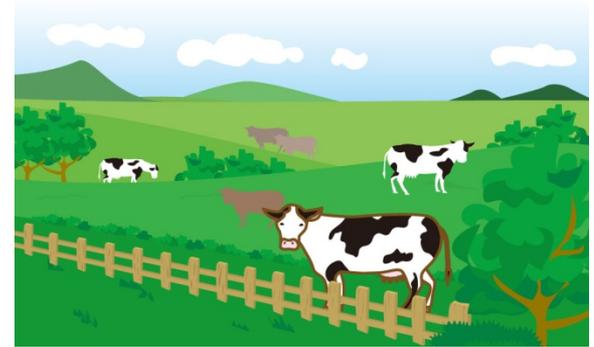
- ・(公財)農村更正協会
- ・八ヶ岳中央農業実践大学校(事務局、実証農場)
- ・諏訪農業改良普及センター(技術支援)
- ・山梨県畜産普及センター(技術支援)

畜産経営支援

- ・日本畜産草地種子協会(広報等)
- ・全農長野県本部畜産課(JA、生産者、教育ファーム等調整)
- ・長野県畜産協会(経営分析・支援等)

飼養管理技術支援

- ・信州大学農学部食料生産科学科(技術支援)
- ・山梨県酪農試験場(技術支援)
- ・東日本くみあい飼料(NON GM飼料供給等)



実証内容

○放牧酪農における、配合飼料等の購入飼料の節減効果、簡易退避舎等施設への低投資の実現、家畜行動学に基づく、省力化に向けた実証等を行うとともに、生草の接種等による生乳の機能性向上と加工への連携を実証
この結果を踏まえ、八ヶ岳南麓地域への放牧の普及を図り生産コストを削減

効果

【生産性の向上】

生産コストの30%削減
経産牛650千円/頭 → 455千円/頭

【高付加価値化】

放牧生乳を利用した機能性乳製品(チーズ、ヨーグルト)の製造

地域全体で17.6百万円の収益増

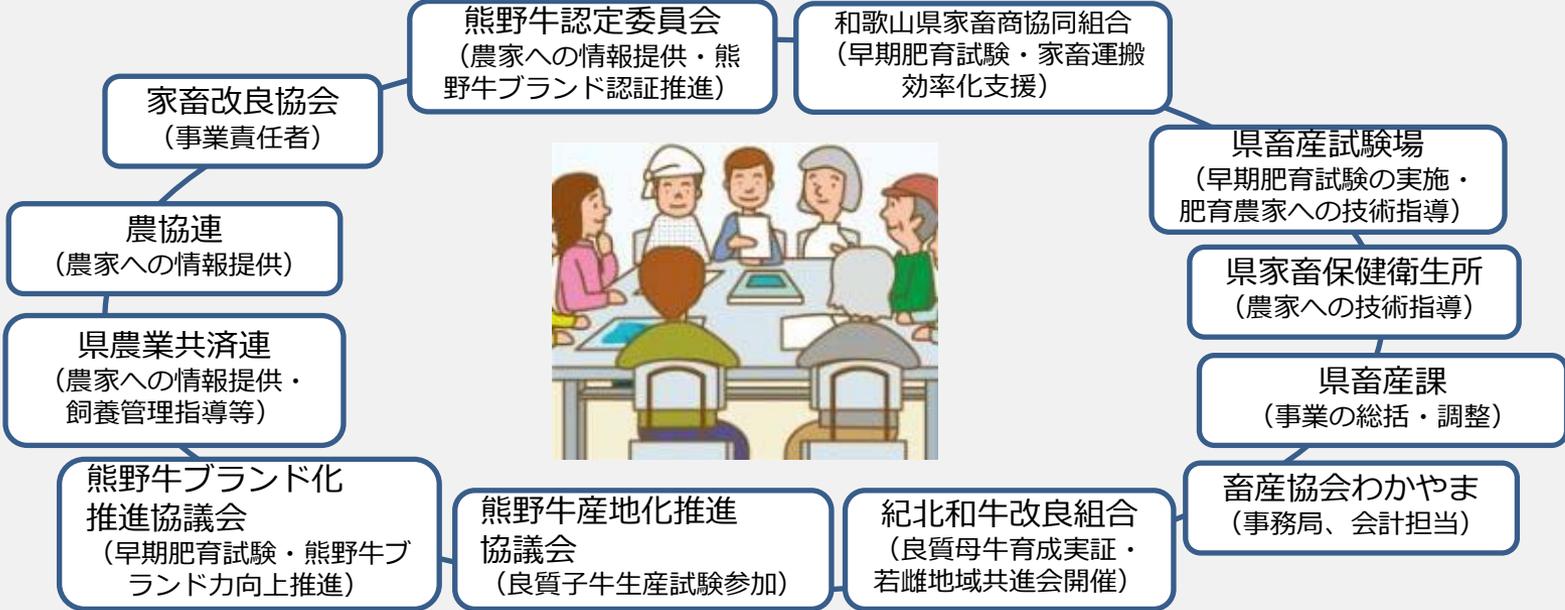
【地域の収益性向上】

90頭数 × 195千円 = 17.6百万円

地域の様々な関係者が連携、結集した畜産クラスター事例⑩ 和歌山県

全国和牛能力共進会和歌山県出品推進協議会

熊野牛の低コスト・高品質生産技術を確立し、普及等することにより、畜産経営の収益力向上を実現



（実証内容）

- 子牛生産マニュアルの作成、普及、若雌地域共進会の開催により、データ収集及び分析、評価
- 短期肥育試験の実施、データ収集及び分析、肥育マニュアルの作成、普及





【繁殖農家の効果】

- ・和牛繁殖雌牛平均分娩間隔の0.6ヶ月短縮

【肥育農家の効果】

- ・和牛肥育牛の出荷日齢を1.0ヶ月齢短縮、出荷生産物に占める上物率を9%増加

→ 地域全体で約4,000万円の収益増

【その他の期待される効果】

- ・繁殖雌牛、肥育牛の増頭等により、地域全体で1億3,200万円の収益増



〔さらに、ブランド力向上などにより〕

地域の畜産関係者や資材メーカーが連携する畜産クラスター事例⑪ 福岡県

ちくごおおかわ しりょうまいけんきゅうかい
筑後大川飼料米研究会

肉用牛飼養農家において飼料米を利用することで、肉質・増体量を確保しつつ、濃厚飼料コストの低減を図り収益力向上を実現



(実証内容)

飼料米の保管及び利用技術における課題を解決し、地域の肉用牛飼養農家へ飼料利用を普及

- (1)畜産農場における保管場所や保管用の資材の違いによる**飼料米保管状況調査**
- (2)肥育牛に、配合飼料の一部を粉碎した**飼料米で代替給与**し、増体及び肉質への影響を調査

(効果)

- 肉用牛飼養農家における濃厚飼料コスト低減
- 地域の耕種農家と畜産農家の一層の連携促進
- 飼料米生産利用面積拡大

地域全体で20,160千円
のコスト低減
(飼料米給与頭数960頭×
飼料費低減21千円/頭=
20,160千円)



児湯地域畜産クラスター協議会

焼酎粕飼料を給与した和牛経産牛肥育の付加価値向上による収益力向上の実現



【実証内容】

和牛経産牛肥育に焼酎粕飼料を給与し、肉質・嗜好性等を分析・評価し、経産牛の付加価値向上を実証

この結果を踏まえ、地域農家へ飼養管理技術を普及

【効果】

- ①付加価値の向上
肉質・嗜好性の改善による付加価値の向上
- ②飼料価格の低減
未利用資源の活用による飼料費の低減

地域全体で、1,640万円の収益増

【地域の収益性向上】

認証牛200頭(生産増) × 8.2万円/頭
= 1,640万円